

ニュース & 新製品

出荷頭数着実に増加、22年度は9500頭目指す

TOKYO X-Associationが通常総会

TOKYO X-Association（会長・植村光一郎、（株）ミートコンパニオン常務執行役員）は5月25日、東京都八王子旭町の京王プラザホテル八王子で、平成22年度の通常総会を開催した。

TOKYO X-Associationは設立11年が経過し、食品流通企業などの会員数は54社192店舗まで拡大した。総会の開会に当たり、植村会長があいさつを述べ、「本会設立11年が経過したが、この日を迎えることを関係各位の協力に感謝したい。TOKYO Xの平成21年度の

出荷頭数は約8680頭で、22年度は約9500頭を目指し販売計画を組んでいる。TOKYO Xを生産する農家も28軒となり、22年度は、おいしさはもちろんだが、「おいしさの後ろにある生産者のこだわりや思い、そのわけ」を説いていく初年度にする。昨年末には農業先進国のフランス共和国から来日した生産者らと研修会を行なうなど、海外の関係者との交流も活発に行なっているが、日本市場は今、価格志向の大きな波が冷え込む中、価格志向に負けてしまったとさらに困難な状況に陥ってしまっている。安易に妥協することなく消費者に本物の価値を理解していくこと、また真に信頼される商品を提供していくことが正しいことだと我々も確信している。

東京都も皆さんと一緒に振興、消費拡大に取り組んでいく」と東京都とともに「TOKYO X」の全面的にバックアップしていく」とを強調した。

今回の総会での平成21年度事業報告では、展示会への出展やさまざまなイベントへの参加、農場視察会の開催、カナダやフランスなど海外の生産者らとの情報交換会など、数多くの活動を開してきたことなどが報告された。また役員改選では、（株）幸運社製造部長の糸瀬好弘氏が副会長に、（株）京王ブ

ラザホテル八王子総料理長の佐藤浩一氏が理事にそれぞれ新任され、以下の役員が留任となった（敬称略）。会長・植村光一郎（（株）ミートコンパニオン常務執行役員）、理事・石井政幸（（株）人形町今半部長）、小林和人（（株）大多摩ハム小林商店社長）、北村陽三（（株）セントラルフーズ生産統括部原料部部長）、監事・林実（（株）西友食品二部畜産担当代ダイレクター）、監事・書記・大根田豊（（株）ミートコンパニオンミートパッカーミート部部長）、監事・書記・荒川政信（（株）カイク課課長）、小石隆二（（株）日本カイク課課長）、ハツミート製造課ボーグ課長）。

北京黒豚、イギリス系黒豚、デュロック種を交配させて作出した「TOKYO X」は、上質の赤身と脂肪がほどよく混ざった肉質が特徴。平成11年秋から出荷が始まり、生産者組織として「TOKYO X生産組合」（中村農組合長）が組織された。

戸別所得補償制度、六次産業化などを明示

農林水産省は6月1日、「平成21年度食料・農業・農村白書」を公表

現在、都内12戸、都外16戸の養豚農家によって、「安全性（Safety）」「生命力学（Biotics）」「動物福祉（Animal welfare）」「品質（Quality）」の四つの理念を持つ「東京SaBAQ」の考え方に基づき飼育、昨年は年間8680頭が出荷され徐々に生産規模が拡大している。

22年度からTOKYO X-Associationの役員から生産組合の組合長を理事から外すこととなつたが、それは同じ仲間とはいえ、「TOKYO X」の取引において体外的に、より公明さを期すため、「生産と流通をより明確にすることで、さらなる伸展を図ることが目的」（植村会長）なのである。

総会の後、日本獣医生命科学大学応用生命科学部准教授の松永美希氏が、ヨーロッパを中心とした世界のアニマルウェルフェアについて講演した。

システムが大きく変わり、大きなゆれ戻しが起きている。交通手段があまり発達していないなかた時代には、御用聞きと配達による販売が主流で、消費者は家にいることが多かつたが、交通手段が発達してからは店に来てもらうことが常識になってしまった。その50年間で何が変わったか思い起こしてみると、商品情報、生産情報、生産者情報、人と人のつながりなのではないか。昔は御用聞きが消費者と向かい合い、その価値のすばらしさを完璧に伝えていたと思う。今、商品はラベルという限られた情報発信しかしていない。ラベルが表現しているのは価格だけではないか。すばらしい商品と出合ったときの感動は誰しも感じたことがあると思うが、そうした感動ができる『TOKYO X』にするために情報発信をしていく。生産者が誇りを持ち、生産に向かえるように消費者がその商品を手にとり、その商品のすばらしさに感動することの一部にこれまでに感動することができることを誓う」と力強く意気込みを語った。

東京都産業労働局農業振興事務所振興課長の大川篤氏が来賓のあいさつを述べ、「TOKYO X」の出展で、多くのメディアにも報じられたからこそ。生産農家の戸数増大、あるいは規模拡大などはもちろんだが、やはりそれを裏付ける流通販売のパックがないと思うように伸びないとと思う。畜産農家が安心しているアソシエーションの努力があつたからこそ。生産農家の戸数増大、あるいは規模拡大などはもちろんだが、やはりそれを裏付ける流通販売のパックがないと思うように伸びないとと思う。畜産農家が安心して販売できる価格の設定あるいは流通ルートの維持拡大、またブランド力の強化などに常日頃アソシエーションの方々が取り組んでいることを東京都としても感謝している。『TOKYO X』は多くのメディアにも



総会には「TOKYO X」の生産者や流通業者が参加

「平成21年度食料・農業・農村白書」公表

した。白書では、「食」と「地域」の再生のため、農政の大転換を図る